誌上行学講習会

高佐日煌上人

確かにそうでありますね。健康とは生まれながら虚弱な人は別ですが、普通の人はずい分と丈夫に生まれついていて、こわそうとしてもなかなかこわれない筈です。生まれてからずっとつかつているのに手入れさえよければ九十、百までもつようになっている。それを無理をしたり夜更かしをしたり、深酒をしたり、マージャンをしたりで明日を忘れてしまう。イチゴのような眼をして、メシも食べられない、上着を片手に靴のヒモも結ばないで、あわてふためいて会社に飛び込むのでは如何に丈夫な体でも長持ちするわけがありません。自からよくせいすることが人間の人間たる特徴なのであります。昔から腹八分目に医者いらずと言われています。

あらゆるものは過ぎてはいけない。

盃を伏せる酒のみは少ないが、無理に酒を飲ますことが日本では最高の接待となっているところに一考を要するものがありましょう。酒を飲む側もたくさん飲めると豪けつだという観念があるが、本当は酒を飲んでも酒に飲まれないのが豪けっなのであります。酒はチョコ一パイで酔うても一升で酔っても酔った味は一緒なのですから、一升かかって酔うというのはそれだけ無理をし損をしていることに外ならんのであります。一パイ飲んでああいい気持ちだという方が、はるかに経済的でよろしいし、酒の上でのあやまちもない筈であります。しかしこれには強い精神力が必要なのであります。

更に女色については特にであります。男は全般的に女性には弱いものであります。美わしき若き女性が流し目を送ってフラフラとしない男は世に存在しないといってよいのでありましょう。

そんな時迷いの雲を吹き払って行くためには並大抵でない強い精神力が必要になってまいります。

伝教大師も「持戒は市の中の虎の如し」と末法灯明記にいっております。外のことはさておいても女性の件だけはだめだと申しておりますが、これは人間性欲をおさえることは出来ないということなのであります。

酒と女、特に女はこわいと言わねばなりません。東京のにぎやかなところのほとんどは、女の色香によって盛んになっているところが多いが、デパートだって然りで、あそこは面相の悪い女は決して採用しない、美人だけよりどっていて、間接的に色香を売っているといえなくはないのであります。いわんや、カフェー・キャバレー・バー等の直接的女色の迷いは計るべくもありません。

本当に誘惑の手は四方にはりめぐらされているのでありまして、よほどしっかりとした強い精神力を持っておらんとあぶないのであります。言うなれば精神力こそ幸福を生む母胎であり、原動力なのであります。

次号へ続く